

第 159 回山口西田読書会(2018 年 1 月 13 日)  
第 158 回 (同年 12 月 15 日) のプロトコル

今回は佐野による「哲学的な問い」、すなわち「昨日の意識」と「今日の意識」が同一である、さらには「一個人の意識」と「他人の意識」が同一である、という西田の議論は妥当だろうか、を巡って『善の研究』第 2 編第 6 章「唯一実在」の章を講読した。

今の意識であろうと、それが反省であれば、反省された自分は自分自身ではない。だとすれば我々は反省の領域では我々自身に決して出会うことはできない。それにもかかわらず我々が反省された自分を自分であると思えるのはそこに自分が自分であるという直観があるからである。これは事実の領域での出来事である。同様に今日の意識と昨日の意識を統一するのも、一生の意識を統一するのも、他者の内に自己を見るというのもすべて直観だということになる。それは音楽に没頭しながら、一音一音を区別しつつそれらを体系的に組織しながら、その全体を自分として聞いているのと同様だということになる。

次回は第 4 編第 2 章を読む。